

# 「亀津小学校の亀津浜踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

徳之島町立亀津小学校

## 2 学年人数

全学年（計 364 人）

## 3 日時・場所

### （1）練習の日時・場所

平成 30 年 7 月 13 日（金） 創意の時間（本校体育館）

平成 30 年 9 月 6 日（木） 運動会全体練習（本校校庭）

平成 30 年 9 月～10 月 3 年総合的な学習の時間(われんきゃタイム)  
「はまおどりを調べよう」

### （2）発表の日時・場所

平成 30 年 9 月 23 日（日） 運動会（本校校庭）

平成 30 年 10 月 総合的な学習の時間の発表

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

### （1）名称

亀津浜踊り（かめつはまおどり）

### （2）由来

400～500 年の歴史があるとされ、稲作文化に根ざした豊作祈願及び先祖を祭って収穫を感謝するために行われてきている。

### （3）構成等

太鼓（1～3 人）の調子に合わせて、歌い手男性（3 人以上）、歌い手女性（3 人以上）が歌い、踊り手が踊る。

まず、太鼓演奏者が中心となって歌い出しの曲目の元歌(前奏曲)を歌う。次に、歌い手男性が共通歌詞 1 番を歌い、全員で踊り始める。そして、2 番は歌い手女性が歌う。その後は、男女のかけ歌で踊る。少しずつテンポが速くなり、24 番まで歌い終わると、また 1 番に戻り、2 回目の 7, 8 番でクライマックスに達し、太鼓の乱打で終わる。

## 5 保存会や地域との連携の具体

毎回、保存会会員の方に 10～20 人参加していただいた。長い布に書かれた浜踊りの歌詞を見せて歌詞の意味を説明していただいたり、浜踊りや浜踊りを引き継ぐ思いについて話していただいたりした。また、保存会会員の方に、生の歌声や太鼓での演奏をしていただき、一つ一つの動きの意味について説明していただきながら、浜踊りの演示をしていただいた。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

### （1）創意の時間

創意の時間では、子どもたちに踊ることの意義や一つ一つの動きの意味をより深く理解させるために、浜踊りの歌の意味や由来、保存会会員の思いや

願いについて話していただいた。

また、運動会では、子どもたちに踊りを楽しみ、一人一人が郷土と共にあり、地域の人々と一体となっていることを実感させるために、保存会会員の方々も、地域の方々も一緒に踊る時間を設定した。

## (2) 総合的な学習の時間（われんきゃタイム）

3年生の総合的な学習の時間（われんきゃタイム）で「はまおどりを調べよう」という学習に取り組んだ。子どもたちに亀津浜踊りについて理解を深めさせるために、文献やインターネットを使って調べさせた。調べたことをもとにして、「はまおどり新聞」を書かせた。

## 7 取組の様子



【浜踊りの歌詞や意味の説明】



【保存会の方々の演示に合わせて一緒に踊るようす】



【地域民も一緒に行った運動会での浜踊り】



【「はまおどり新聞」を読み合う子どもたち】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

子どもたちからは、「友だちや保存会の人も地域の人と一緒に踊ることができて楽しかった。」「去年よりも上手になったと思う。」「まねをしながら覚えることができた。」「浜踊りは楽しい。ぼくたちもまた教えていきたい。」などの感想が聞かれた。中には、保存会会員の祖母に取材し、浜踊りについて新聞にまとめた子どももいた。

教員からは、「鹿児島県本土のおはら節などに見られる手を外に払う動きと異なり、手をなめらかに内に巻き込む仕草を習得するのが難しかった。」「徳之島にも地区ごとに浜踊りが存在するが、地区によって歌い方も踊りも歌詞も異なることが分かった。だからこそ亀津浜踊りを伝承することの重要性を感じた。」などの声が聞かれた。